

女性部9ちゃんのぼり旗 登場



宣伝活動の様子を本部までお寄せください。(山本)

女性部キャラクター9ちゃんのぼり旗ができました。各地域で、これからの宣伝活動におおいにご活用ください。

あわせて、マスクケース、除菌ティッシュも7月半ばに出来上がります。各地域とも希望の個数を本部までご連絡ください。

コロナ禍の中、まだまだ行動に制限はありますが、いかに工夫して宣伝行動にとりくむか知恵を出しあい、女性部運動を滞らせないためにも、みんなで奮闘していきましょう

のぼり旗デザイン* 廣瀬久子さん

(愛知学童保育支部・女性部委員)

「9条守ろう」の「9」は、のぼり旗にいくつあるかな？

組織名を書き込んでね

★中央女性部 4月以降のとりくみ

4月 7日 第2回女性部委員会

4月 19日 第4回京都フェスタ実行委員会

5月 22日 全労連女性部「韓国の旅」、単産地方交流会

6月 7日 第3回女性部委員会 ※会議はすべてオンライン

★学習活動について 勤労者通信大学、建交労パワーアップ試験に挑戦中の方、お知らせください。女性部の援助制度あります。



ながのバッグ

6月、カタログNo.2を作成、販売が始まっています。

建交労ホームページに
カタログ掲載中

届いた箱をワクワクしながら開けると、長野の「みずぎ飴」とメッセージカードが添えられています。長野より磯野さんが発送しています。



コロナ禍で集まらない日々がもう1年半。オンライン会議も慣れたといえば慣れたけど、以前のようなおしゃべりやおやつタイムはなくなり、終了後もポチっとクリックひとつで「退出」。味気ないなあ。

しかしまだこの期に及んで管首相は五輪を「やる」という。五輪は「やれる」のに、なんで私たちのささやかな集まりはやれないのかな、自粛・時短を守っているのかな。その違いは、私たちには良識があること、自分とまわりの人のいのちと生活を大切にしているからです。これが完全に欠落している管政権には、一刻も早く退陣してほしいです。YouTube「やるんか東京、やるんかオリパラ」をご覧ください。一瞬、気が晴れます(笑) 今年の女性部大会、どんな形でやれるか、模索がまた始まります。(井上玉紀)

レポート① (磯野紀子)

全労連女性部 30 周年企画 オンライン韓国歴史の旅

コロナ感染の心配あり、当初の韓国ツアーは中止、5月22日午前開催、初めての試みでオンライン企画となりました。全体で122人の参加。

「**ナムム(わかちあい)の家**」は、韓国北部ソウル特別市近くにある、性奴隷に遭った人たちのために作られた施設。高齢のイ・オクソン ハルモ二（おばあちゃん）はそこに住み、「わたしには残された時間がありません。私がこの世を去る前に謝罪と賠償を日本政府から受けられるかどうかは、日本の皆さんの手にかかっています。」と発言。ナムムの家の国際室長 矢嶋幸さんは「痛みの伴う歴史を分かち合うことからすべては始まる。」のメッセージと一緒に歴史に向き合い行動していったらと発言しました。

「**植民地歴史博物館**」の専門研究員・野木香里さんは、日本の朝鮮侵略、植民地支配は何だったのか、平和はどのように実現できるのか、一緒に運動をと話されました。

全国民主労働組合総連盟(韓国民主労総)と全労連女性部役員が懇談しました。全国110万人、16の産業別労組で、女性委員会委員長のパク・ヒウンさんは、コロナ禍での女性の状況を報告、日本と変わらず女性労働者の不平等、弱い状況下に置かれ、中でもエッセンシャルワーカーの領域が顕著。ジェンダー平等と共に労働政策を変えることを訴えられました。

(感想) オンラインツアー初体験、韓国についてもナムムの家も韓国の「民主労総」についてもほとんど知らない次元にいました。イ・オクソン ハルモ二の「どうして日本は認めて謝罪しないのか」の言葉が胸に刺さりました。日本人として恥ずかしい。ここにいてできることを共に運動することが少しでも「わかちあい」になるのであれば、できることをやっていかなければと思いました。とてもいい企画でした。

レポート② (江部明子)

5月23日、東京地評女性センター主催のジェンダー学習会をオンライン併用で開催され60人が参加。

湘南合同法律事務所の**太田啓子弁護士『ジェンダー平等をすすめるために』**と題して講演。子育ての日常や性差別構造(政治・経済、重要な意思決定の場に女性がいない)、差別を見過ごせないこと、そして教育の重要性を強調されました。「これからの男の子たちへ」を出版され、ジェンダー平等ってなんだろう、男らしさって何だと思っていたという男性からも好評です。



レポート③ (小島マリ子)

6月20日神戸勤労会館での
第7回アフタヌーンカフェに

建交労3名が参加(兵庫県労連女性部主催、会場18名、リモート6名)。長尾ゆりさんによる「コロナ禍で浮ぼりになった女性差別…ジェンダー平等の実現を！」の学習会でした。

(講演内容)4月に親しい友人をコロナ感染で亡くし、医療崩壊を実感した。コロナ禍で、医療・福祉を切り捨てる新自由主義をすすめる政治の問題点が浮き彫りに、さらにジェンダー差別の問題では女性・非正規労働者に困難が集中した。「8時間働けば普通に暮らせる社会」「自分の人生を選べる賃金を」「いのちを何より大事にする」など要求の中身を豊かに、「おかしいことはおかしい」と声を上げ続けよう!「わきまえない女性」の声が森喜朗委員長を退任に追い込んだように!セクハラアンケートで声を上げた人を一人にしない。職場で、地域で繋がって誰もが輝ける社会を実現しよう。

後半は、**ワークショップ**「折り紙で作る花々」「アジサイ」「ツイストローズ」があり、私は、リモート参加で折り紙はとつても難しかったです。しかし、終了後はネットで色々調べたりして色んな折り紙を楽しんでいます。

レポート④ (浜田玉奈)

第92回愛知中央メーデー
**あいち女性部は今年も
デコレーション部門で最優秀賞**

コロナ禍の今年は、自治労連と学童が不参加を決めデモ行進も中止とした縮小型メーデーでしたが、コンクール作品は例年の2倍も出品され厳しい審査となりました。愛知女性部が作成したデコレーション**「希望の樹」**はみごと激戦を勝ち抜き、今年も最優秀賞を受賞!賞金3万円をいただき、会議での物資販売がコロナ禍でできない状況下の貴重な収入となりました。なんと、**労職も横断幕部門で最優秀賞**を受賞しました!(左/労職の石村さん、右/「希望の樹」)

